

太平洋戦争終戦 焦土の中の再建から70年

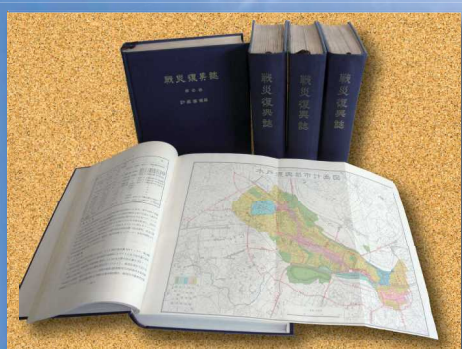
企画展

戦災からの復興

地図や写真でたどる復興の道のりと国土の変貌

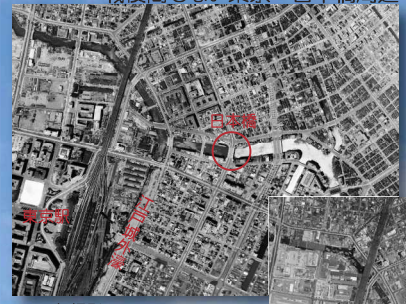


全国主要都市戦災概況図 (昭和20年 第一復員省作成 国立公文書館所蔵)



戦災復興誌 (昭和34年~36年 建設省編)

戦後間もない東京・日本橋周辺



1947年撮影

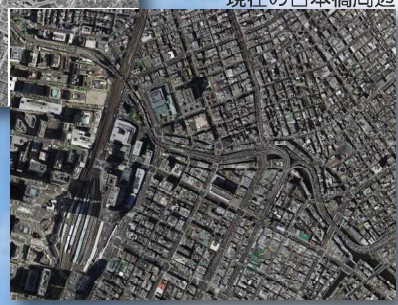
東京オリンピック前年の日本橋周辺



1963年撮影

外濠が埋立てられ東京駅八重洲口の開発が進み、日本橋川の上には建設中の首都高速道路の橋げたを見ることができます

現在の日本橋周辺



2009年撮影

2015.

3.10(火)~8.30(日)

開催期間延長

<開館時間・休館日>

開館時間 9:30~16:30

開催期間中の休館日 毎週月曜日

(ただし月曜日が祝日のときは翌火曜日)

<会場>

地図と測量の科学館

(つくば市北郷1番 国土地理院構内)

お問い合わせ: 電話 029-864-1872

入場無料



国土交通省国土地理院

写真: 水戸市南町付近戦災の惨状 (「戦災復興誌 第8巻」昭和35年 建設省)

戦災からの復興のご案内



長崎（左）、広島（右）戦災地立体地形模型

本年は、太平洋戦争の終戦から 70 年を迎え、日本各地でこれを見つめなおす様々なとりくみが催されることと思います。

「地図と測量の科学館」では、戦災により焦土と化した全国各都市の戦後復興のあゆみや、発展のようすなどを地図と写真で紹介する企画展「戦災からの復興」を開催します。

先の大戦では、日本国中が米軍の爆撃機「B29」などによる苛烈な空襲を受け、国内主要都市の大部分が灰燼に帰しました。戦後の日本は、文字どおり廃墟の中で「生きるため、生活するために必要不可欠なインフラの整備」から再建の道を歩むことになりました。せまりくる冬を前に応急仮設住宅の建設などの住宅の確保、交通・通信・電気・ガス・水道などの復旧、病院・診療機関や浴場、し尿処理などの衛生施設も必要でした。

こうした応急復興措置とあわせて、将来を見据えた恒久的都市復興計画の策定が重要となり、復興を担った「復興院」は当初、水準の高い都市づくりの理念と意欲にあふれた「戦災地復興計画基本方針」をかかげました。しかし、インフレによる物価高騰、財政難や資材不足、さらには戦後日本に進駐してきた GHQ の方針などにより、計画は縮小・変更を余儀なくされました。その結果、車社会の到来を想定した大都市の広幅員の幹線道路や都市景観に考慮した緑地帯の建設などの多くは見送られることになりましたが、名古屋の「100メートル道路」や仙台の「青葉通り」に、当時の「理念」を垣間見ることができます。

終戦から 70 年、日本は戦後復興から高度経済成長期を経て、世界有数の経済大国の地位を築きましたが、一方で、地方と都市の過疎過密問題や環境問題、インフラの老朽化など、社会が抱える課題も明らかになってきています。

本企画展をつうじて地図や測量に関心を深めていただくとともに、この機会にわが国が歩んだ戦後復興に思いを寄せ、さらには戦争行為の及ぼす影響を見つめなおす一助にいただければ幸いです。

<おもな展示の内容>

■戦災から復興へ

- 戦災の概況と罹災都市 [地図と図表]
- 全国主要都市戦災概況図
(昭和 20 年 第一復員省作成 国立公文書館所蔵)
- 戦災地復興計画基本方針
(昭和 20 年 12 月 30 日閣議決定)
- 戦災復興誌(昭和 34 年～36 年 建設省編)
- 復興都市計画図(「戦災復興誌」差し込み)

■東京・・・大空襲と世界有数の大都市への発展

- 昭和はじめの東京市とその周辺 [地図]
- 東京の戦災概況 [米軍撮影の戦後空中写真上におもな空襲ごとの罹災地域を表示]
- 4 万分 1 戦災焼失区域表示帝都近傍図
(日本地図株式会社作成 [複製版原本])
- 東京復興都市計画図 [拡大複製]
- 旧東京市相当範囲縮尺 2 万分 1 空中写真 [2009 年]
- 空中写真で見る日本橋・霞ヶ関・新宿・両国周辺の移り変わり [1947 年、1963 年、1979 年、2009 年 各時期撮影 縮尺 4 千分 1]

■広島・長崎

- ・・・原爆の惨禍をのり越え世界に発信する平和都市建設
- 戦災地の立体地形模型
- 原爆投下直後に撮影された爆心地付近の空中写真
(米国公文書館所蔵 広島:8 月 8 日、長崎:8 月 10 日)
- 戦災地表示 5 万分 1 地形図「広島(昭和 24 年応急修正)」
- 「広島平和記念都市建設法」と「長崎国際文化都市建設法」(昭和 24 年制定)
- 現在の広島・長崎 [地図、空中写真]

■沖縄

- ・・・県民を巻き込んだ地上戦を経験し、戦後四半世紀に及ぶ米国統治下での復興の歴史
- 米軍作成の地形図と琉球政府作成の国土基本図
- 写真で見る那覇の移り変わり
- 沖縄戦関連資料(米軍侵攻・南部戦跡関連地図等)
- 沖縄の復興(戦後のできごと等)
- 沖縄と鉄道(鉄道描入の地形図等)

■おもな都市の戦災と復興

- ※戦災概況図、復興計画図、新旧地形図や空中写真等でおもな都市を紹介
- 仙台・・・復興計画の区画整理地内に工業地をおかず、東北地方の中心的文化都市“杜の都”として発展
- 前橋・・・利根川対岸へ市域を拡大し、美観上豊かな空間を創出した都市との評価
- 横浜・・・米軍による日本占領拠点との位置づけから多くの接収地があり復興・発展が遅れたが、いまでは日本有数の大都市に成長
- 富山・・・伏木港の機雷封鎖、大きな被害を受けた終戦間際の空襲などを経て、潟を掘りさげた新港の建設や周辺と一体となった工業立地で復興
- 名古屋・・・軍事産業・重化学工業集積地域ゆえの未曾有の徹底的破壊から、戦後の雄大な復興計画を实践
- 大阪・・・東京と並ぶ経済・金融・交通・商業・文化の中心としての揺るがぬ地位をもとに産業都市への飛躍
- 神戸・・・海と山にはさまれた狭小な市域から周辺町村との合併や埋め立てで市域を拡大し発展。戦後 50 年をむかえる平成 7 年(1995 年)に大震災を経験
- 鹿児島・・・本土最前線として激しい空襲にさらされたが戦後は陸海の交通の要所である西鹿児島駅(鹿児島中央駅)付近に市街地の中心を誘導して発展

■茨城県内のおもな都市・地域の戦災と復興

- 水戸・・・空襲で台地上の旧市街地を焼失。戦災を機に再開発を進めながら、戦後は常磐線南側の低地を中心に市街地を拡大
- 日立・・・空襲と艦砲射撃で市街地は壊滅。日立製作所の工場中心に産業都市として復活
- 土浦・阿見・・・海軍航空隊の基地が攻撃対象。軍施設の一部は戦後も自衛隊基地で使用されるが、それ以外の敷地は大学病院や公共施設、工業団地等に転用

■その他

- 戦時史料
※「米軍撤布の伝単(空襲予告ビラ [複製]、国立公文書館蔵)」や、陸地測量部作成の「小縮尺地図」